資料提供

令和７年６月24日（火）
照会先：保健医療部疾病対策課感染症対策室疫学Ｇ
担当者：室長補佐　大芦
連絡先：029-301-3233（内線：3280）

ライム病患者の発生について

６月 18 日、海外渡航歴のある県内在住者について、ライム病の発生届がありました。県内医療機関からのライム病の発生届は 2017 年９月以来、約８年ぶりです。患者は、既に軽快しています。

ライム病は、病原体を保有したマダニに咬まれることで感染する感染症で、症例の推定感染地域としては、国内では主に本州中部以北（特に北海道）であり、海外では主にアメリカ、欧州諸国が多いとされています。マダニは、春から秋にかけて活発に活動しますので、野山に入るときは肌の露出を少なくし、虫よけ剤を適宜使用するなど、マダニに咬まれないように注意してください。

１　患者の概要：40 歳代　男性
２　推定感染地域：欧州
３　症　　状：倦怠感、ダニの刺咬（しこう）部を中心とする紅斑（遊走性紅斑）
４　経　過　等：
　５月下旬　　欧州に滞在
　６／　９（月）　倦怠感出現
　６／１０（火）　紅斑出現
　　近医受診し、別の医療機関を紹介
　６／１１（水）　医療機関受診
　　ライム病の疑いで、国立健康危機管理研究機構に検査依頼
　６／１８（水）　遺伝子検査でライム病の陽性が判明
　　医療機関からつくば保健所に発生届

プライバシー保護の観点から、患者及び患者家族等が特定されることのないよう、格段の御配意をお願いいたします。

○　ライム病とは
原　　因：ライム病ボレリア（スピロヘータと呼ばれる細菌の一種）
潜伏期間：３日～30 日前後
症　　状：感染初期（第１期）：マダニ刺咬部を中心として特徴的な遊走性紅斑を呈することが多い。インフルエンザ様症状（筋肉痛、関節痛、頭痛、発熱、悪寒、倦怠感など）を伴うこともある。
　播種期（第２期）：病原体が全身に拡散し、皮膚症状、神経症状、心疾患、眼症状、関節炎、筋肉炎など多彩な症状が見られる。
　慢性期（第３期）：感染から数カ月ないし数年後に、播種期の症状に加えて、重度の皮膚症状、関節炎などを示す。
　※日本では第３期まで移行した症例の報告はない。
治　　療：抗菌剤投与
感染経路：病原体を保有するマダニに咬まれることによって感染する。ヒトからヒトへの感染はないとされている。
感染予防：野山に入るときは、肌の露出を少なくし、虫よけ剤を適宜使用する。
　マダニに咬まれたことに気が付いた場合には、無理に引き抜こうとせず速やかに医療機関（皮膚科など）で処置してもらう。

【参考】ライム病患者発生状況　（単位：人）

年　次	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年※
全　国	19	13	17	26	23	14	29	25	1
茨城県	1	0	0	0	0	0	0	0	1

※全国は６月８日までの報告件数（速報値）
※本県は今回の事例を含む。

－　県からのお願い　－

○　県民の皆様へ

１　マダニに咬まれないように注意しましょう

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

草むらや藪などに入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。

服は、明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）がお薦めです。

ディート（DEET）やイカリジン（ピカリジン）等を含む虫よけ剤の併用も効果が期待されます。

２　マダニに咬まれた場合

マダニに咬まれていることに気が付いた場合、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。